

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和4年 3月 26日

事業所名 社会福祉法人至泉会 すこやか園 児童発達支援事業

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容 又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		・活動を行う部屋、エアートランポリンを行う部屋など、メインとなる部屋に加えて、内容に合わせて部屋を使い分けている。	
	②	職員の配置数は適切である	○			
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		・活動によって部屋を分けている。絵や写真等の視覚的情報や提示の仕方、タイミング等、子どもが分かるように伝える工夫をしている。	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		・子どもが直接触れるものは、消毒をしたり、洗うなどをしている。	
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		・できる工夫をしながら、業務を進めている。	
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			

	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につな げている	○		<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理施設であるため、市からの評価を受けている。 ・外部委員会からなる運営委員会で年2回、園の状況を報告したり、評 価をいただく機会を設けている。今年度はコロナ禍のため、書面で報 告した。 	
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保してい る	○		<ul style="list-style-type: none"> ・専門職と連携することより、日々の支援の中で研修の機会になってい る。 	
適 切 な 支 援 の 提 供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課 題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成して いる	○		<ul style="list-style-type: none"> ・療育場面以外にも家庭、併行通園先の様子、発達検査等の結果なども 踏まえて作成している。 	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセ スメントツールを使用している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・年長児は就学に向けて発達検査を行っている。また、お子さんの状況 によって必要な場合は遠城寺式・乳幼児分析的発達検査表や知能検査 も行っている。 	
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児 童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及 び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容か ら子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、 具体的な支援内容が設定されている	○			
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援計画の支援目標に合わせた記録、振り返りをしている。 	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		<ul style="list-style-type: none"> ・職員で各学年のプログラムの立案を毎月話し合っている。また、療育 を行う中で、言語聴覚士、作業療法士、公認心理師など、各専門職員 の視点で意見を出し合いながらプログラムの立案や子どもの対応に 活かしている。 	

	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		・2週同じ活動内容を設定し、1週目の子どもの様子を踏まえて展開している。	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて児童発達支援計画を作成している	○		・グループ療育以外に、年少、年中児は年2回、年長は月1回の個別支援を行い、大人とのやりとり、理解面の把握をしている。	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		・療育後の振り返りを行いながら記録をしている。	
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			
関係 機 関 や 保 護 者 と	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○			

の 連 携 関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	②④	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○			
	②⑤	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・入園予定の園と保護者の了解のもと連絡をとり、必要な情報を伝えている。	
	②⑥	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・就学支援の一環として就学相談を受けた方に対しては教育センターへの情報提供を行っている。また、小学校からの依頼があった場合に保護者に了解をとった上で情報提供を行っている。	
	②⑦	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		・今年はコロナ禍のため、外部の研修の機会が限られた。	・今後は動画配信による研修を利用していく。
	②⑧	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○		・併行通園児がほとんどのため、園として機会は設けていない。	・保育所等訪問支援事業で年に2回程度、併行通園先の幼稚園、保育園と連携を図っている。今後も引き続き連携し、支援に繋げていく。
	②⑨	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		・参加した職員から必要な情報を得ている。	
③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		・送迎時に家での様子や園での様子を保護者と共有している。		

	①	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	○		・家族支援プログラムとして行っていないが、保護者との面談の中で関わりの提案を行っている。	
保護者への説明責任等	②	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	③	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			
	④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			
	⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		・コロナがあり、密な交流は難しかったが、懇談会で顔を合わせる機会を設けた。	・年に1回懇談会を予定し、保護者同士の顔合わせの機会を設けてきた。今年度は、新型コロナウイルスの影響により、実施する時期を変更したり、実施を中止せざるを得ないグループもあった。今後も新型コロナウイルスの状況を考慮し、実施の時期等を検討していく。
	⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		・2~3ヶ月に1回は面談の機会を設けたり、必要に応じて面談を調整している。	
	⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		・毎月、月の予定を配付している。	

	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	○			
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		・毎年1回、市主催で行われるふれあい福祉まつりの会場となっており、地域住民に足を運んでいただく機会となっているが、今年はコロナ禍のため中止となっている。	
非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		・マニュアル等の周知については、保護者には利用開始時に文面にて知らせている。訓練については、コロナ禍のため職員のみで実施した。	
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		・今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、療育場面の訓練は実施できていない。	・新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、職員のみで2021年11月に実施日を複数回設け、人数を分けて訓練を実施した。その様子を書面で掲示し、保護者に周知した。今後も状況を見て訓練の時期や参加人数等を検討していく。
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○			
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			

④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・一日の振り返りで、ヒヤリハットの内容を書面に残している。 ・担当職員が、件数や内容を取りまとめ、整理してる。 	
④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		<ul style="list-style-type: none"> ・月1回、虐待防止チェックリストを使い、各職員で確認し、隔月で虐待防止委員会を実施している。 	
④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束を行う児はいない。 ・契約書、重要事項説明書で確認。 	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。